

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0793230012		
法人名	有限会社T&T		
事業所名	認知症対応型グループホーム高原の家かわうち		
所在地	福島県双葉郡川内村下川内字田ノ入18-3		
自己評価作成日	平成26年8月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒970-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成26年9月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

馴染みのある関係のなかで、「利用者本位」に家庭的な雰囲気与生活できるよう「異体同心」を理念に支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員が何でも話し合える環境ができており、利用者本位で危険なこと以外は試してみることができ、良いと思えたことは管理者・職員全員で共有し合えるようにしている。利用者が何を望んでいるかを表情やしぐさから汲み取って、職員はできる限り実現させたいと考え、一人ひとりの思いに沿ったケアを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者本位」「地域密着」を基本に入居者が安心して日常生活を送れるように支援して行きます。「異體同心」の言葉を目標に、介護に対しての心は同じという方針で支援出来るように努めています。	理念に基づいて、利用者の思いを職員は自分の家族の思いのように考えたケアに取り組んでいる。申し送りノートで一人ひとりの状況を職員同士で共有し、統一したケアを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	仮設住宅の入居者さんとの交流会や避難訓練の参加協力もあり、地域の方々との交流は少しずつですが増えてきていると思われます。	仮設住宅の中の顔なじみの方をたずねたり、面会に来ていただいたり日常的に交流している。芋煮会や慰問など事業所の行事を、近隣の方にチラシを配布してお知らせし、参加していただいている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームの認知度は高まってきているが、地域貢献には至っていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度6月より運営推進会議を行う事が出来ています。会議を行う事により、より良い施設運営が行えるよう努めたいです。	会議の中で利用者の生活状況や外出の様子を説明して、継続して開催できるようになっている。会議を通して、家族や地域の方に訪ねてきていただける事業所になるよう、運営している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括のケアマネが訪問した際に入居者の情報交換を行っています。	情報交換や状況報告を日常的に行い、何でも話し合える連携ができています。事業所から病院へ行かれた方の受け入れ要請があり、包括支援センターと協力し、対処している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	徘徊のある方に対して玄関のセンサーを利用し、外へ出たい時は職員が付き添って外へ出れるよう努めています。他の福祉用具の利用により本人の意思決定が出来るよう支援しています。	徘徊の多い方や、外に出たがる方には、職員と一緒に連れて行くなどして、拘束しないケアに取り組んでいる。言葉の拘束についてもミーティングで話し合い、気づきを共有しあっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持っていません。身体的虐待以外でも心理的虐待もあるので入居者に対する言動には注意していくよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要とする入居者が居ない為、学ぶ機会がありませんが、研修会・講習会がある場合は積極的に受講するよう努めます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約の際、できるだけ解りやすく家族の理解が得るまで説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価の結果を閲覧出来るようにしご意見箱を設置しております。 要望等がある場合は職員・管理者等で話し合い要望に近づけるように努めています。	家族の面会時に、何でも気軽に話していただけるようにし、意見を運営に反映させている。遠方ではなかなか面会にこれない家族には、お便りの通信欄に面会に来ていただけるよう、願っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からも要望等を聞き、管理者等で話し合い要望に近づけるように努めています。	管理者と職員は、利用者の身体状況や安全について、休憩時間などにも話し合い、運営に反映させている。ヒヤリハットが少なくなり、危険予防策が取れるようになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩時間の確保や有給休暇が取得出来るように努めています。 また、不定期に職員同士の交流会を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に対し研修会の情報を出し、希望する職員・必要と思われる職員に研修を受けてもらう。 研修内容は職員に報告し、情報を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	仮設運営の為、ほとんど交流が無いのが現状です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント時、本人の要望・相談事等を聞き、信頼関係を築けるよう努めています。 また、入居後も新たに出てきた要望・相談事にも対応できるように支援し、より良い関係を築いて行けるよう努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントの際、家族の要望・相談事等を聞き、信頼関係を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの際、本人・家族の要望、必要とするサービスを見極め、支援に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者一人一人必要な同居者だという事を念頭に支援・対応に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の変化やホーム内での様子などを電話・広報誌等で報告しております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人がいる隣の棟へは行きたいときに行けるようにしています。	近くの魚屋やお菓子屋さん・美容室を利用して、馴染みの関係がつくられてきている。昔住んでいた地域に出かけて写真を撮ったり、懐かしんでいたいたりすることを、支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、声掛けを多くして少しでも入居者同士の関係を良いものにしていく様に支援する。 一人になりがちな入居者に対しては職員が声掛けや相談事を聞き、不安を取り除けるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	職員・入居者が同じ町村内である事が多く、家族との関わりも続いているので相談・支援も行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の要望があればその物事に近づけるように支援する。 日常生活で何気なく出た言葉などを聞き逃さないようにする。	その人の表情やしぐさなどから、思いや意向を把握するようにしている。気持ちを打ち明けることが難しい人には、家族に面会に来てもらい、話をするなど思いを聞いてもらえるよう、働きかけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のフェイスシート等で解りきれなかった情報や会話などでわかった事等職員内で情報を共有する。 (家族の方にも聞いて確認する)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の性格や体調等を把握し、その人の生活リズムに合わせた支援を行う。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々対応している職員・看護師・家族の意見、中心である本人の意思が組み込まれるよう介護計画を作成出来るよう努めています。	本人・家族の希望や困っていること大切にしていることなど、一人ひとりを大切に介護計画を作成している。具体的な意見が出ないときでも、その人がしたいことができる計画作りを基本にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の変化に応じて職員間の意見交換等を行いケアの統一。申し送りノートで情報を共有する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当施設ではデイサービスの指定も受けており受け入れは可能です。 入院された入居者に対しては家族対応である洗濯物等は施設で行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難先ではあるが、顔なじみのお店も出来て入居者は楽しそうにお店に行かれています。また、村の広報誌も毎月楽しく読まれています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望によりかかりつけ医を決め定期受診を行う。 定期受診により適切な治療を受ける事ができ、かかりつけ医と事業所の繋がりも築ける。	家族が遠方にいる方が多いので、職員が代行することが多い。専門の医療機関への受診などは、家族にお願いしている。受診時に、日々の健康状態などを伝え、適切な受診が出来るよう支援し、受診結果は共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活での変化や気づきを看護職員に相談し適切な受診を受ける事が出来るよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に行ったときは本人が安心して治療に専念出来るよう声掛けや話を聞く。 医療従事者から状態を聞き、情報交換すると共に関係の繋がりを得る。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際、看取りについて説明・契約を交わし、本人・家族の意思を尊重し支援出来るようつとめる。	重度化した場合における(看取り)指針のなかに、終末期ケアの基本理念があり、必要な医療・人・介護空間を提供しようとしている。職員の研修参加も予定しており、本人・家族の意向に沿う体制作りをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの講習や入居者の持病から起こり得る急変時の対応、連絡手順を把握出来るよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定避難訓練を実施しています。また、周りの住民の方に協力していただき一緒に避難訓練を行っております。	消防署の協力を経て、避難訓練をし、近隣の方にも参加していただいている。自主避難のためのマニュアルも作られており、避難場所や避難経路の確認もできている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人を尊重しプライドを傷つけないように支援しています。	入室の際は、声かけをして、プライバシーを大切にしている。その人の表情や言葉から思いや意向をくみ取り、自己決定しやすい言葉かけをしながら、職員同士で対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が気兼ねなく何でも話すことができるように信頼関係を築き支援する。 個人の好みを把握し提供や声掛けをする。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の意思決定を尊重し個人のペースに合わせた支援を行う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人希望時美容院へ外出したり、家庭で出来る毛染めであれば職員が対応し染める事もしています。 衣類は入浴時に本人と見て選び決めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	施設内で野菜を作ったり、フキ剥きやマメのスジ取りの手伝いをしてもらい食材に関わるにより食事が楽しいものになるよう支援する。	季節の食材を使って、その日のメニューを決めている。入居時に、食事の好き嫌いなどについて聞き、その人に合った食事を工夫している。誕生日には、食べたいものを聞いて、希望の食事を味わってもらおうようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人好き嫌いはあるのでなるべくその事に対応する。嫌いなものの代用品はなるべく同じ栄養分が補えるものを提供する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯ブラシ・うがいの声掛けや介助を行う。 義歯は夕食後洗浄剤に浸けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握して声掛け・トイレ誘導し、失敗する回数を少なくしています。日中可能な方はハビリパンツを使用せずに布パンツと尿取りパットを使用するようにしています。	普段言い慣れている言葉で声かけを行い、違和感なくこれまでの排泄の習慣を継続できるよう工夫している。落ち着いて排泄できるため、部屋のポータブルトイレを使用する人もおり、その人に合わせた排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一か月の排便チェックシートがあり個人の排便パターンが分かるようになっていました。便秘気味の方は個人に合った方法で対応しています。(服薬・飲食物等) 毎日軽い体操も行っていきます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ほぼ毎日入浴することが可能ですが時間帯は本人の希望に添っていないと思われま。入浴の時間は本人にとってゆったりと過ごせるくつろぎの時間なのでリラックス出来る時間を提供しています。	入浴は、本人の意思を尊重して無理強いせず、出来るだけゆったりとした気分で入れるように声掛けなどに工夫している。季節のゆず湯などや、良い香りの入浴剤を使用し、リラックスして入浴出来るよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や訴えに合わせて休まれて頂いています。体操やボール運動など毎日行うプログラムをとりいれています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬等変更があった場合申し送りノートに記入し、職員全員が把握できるようにしています。看護職員に注意すべき点なども聞き職員に伝えるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	夕食後の時間などゆっくりと生活出来る時好きな音楽を聴いたり、晩酌の好きだった方にはノンアルコールビールなどの提供をしたりしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族と出掛けられる入居者もおられますが、なかなか回数は少ないと思われま。職員と一緒に散歩へ出たり野菜収穫・手入れ等を行って外へ出る機会を増やしています。	安全に外出出来るように、事前にトイレや車椅子を考慮した下見を行なっている。桜の季節の花見、フラワーセンター、さくらんぼ狩り、相撲見物などに行き、気分転換を図っている。家族の方にも参加してもらえるよう事業所のお便りでお知らせしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	病院受診時売店へ寄ったり本人希望の物がある場合は職員が代理で購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話を掛けプライバシーなどにも配慮し居室での通話をしていただいております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾りやレクリエーションの結果などを貼るにより入居者同士の会話も広がっています。	壁の飾りは、季節に合わせたものを利用者と職員が一緒に作って、居心地良く過ごせるよう工夫している。湿度計を見ながら、加湿器、空気清浄機を使ってウィルス除去を行い、感染症予防などの対策をし、快適に過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仮設の為共同スペースはホールですが、気の合った入居者同士が居室を訪れ会話を楽しまれています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。 (グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。 (小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	各居室は解りやすく個人の写真や好きな物などを飾り本人のくつろげる生活環境を提供しています。	安らぎを得るような馴染みのものが持ち込まれ、それぞれの利用者の居心地のよさを配慮している。季節の衣替えは職員が手伝って行き、清潔で快適に過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室が分からなくなる入居者さんの入り口にはプレートを付けるなどをしてなるべく自立の出来る支援を行っています。		